

地域の理想の将来像を描いた丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」。  
たんばの「自立」「交流」「元気」「絆」「安全安心」をめざして、5つのグループが取組を進めています。

発行：丹波地域ビジョン委員会 〒669-3309丹波市柏原町柏原688 Tel.0795-72-0500(内217) FAX0795-72-3077



## 30年後の丹波地域を想像して今を創造する！

第10期丹波地域ビジョン委員会委員長 岸 孝 明

兵庫県では、2050年の県政を想定して、「全県新ビジョン」を県民と協働して策定しようとしており、丹波地域ではそれに倣って丹波県民局が「丹波地域新ビジョン」を策定すべく、広く丹波地域の人々に新ビジョン構想への参画と協働を呼び掛けています。



それに呼応して、こんな丹波地域であってほしいという願いをもって自主的に集まったのが「丹波地域ビジョン委員会」のメンバーであり、5つのグループに分かれて願いの実現に向けて様々な取り組みを進めています。

今年は新型コロナ禍のために会の発足が遅れた上、集団活動の制約やイベントの中止等の困難な状況下、各グループの「丹波の今を創造する」ために取り組んだ活動の数々を記載しましたので、ご覧ください。



## 自立のたんば 生かそう！丹波の食グループ

丹波のもったいない食材に光をあてて蘇えらせることを目標に、三つの食材「柿」「栗」「お茶」をテーマに活動しています。

集落の高齢化に伴い、放置される柿。この柿がクマや猿の獣害が急増した一因と指摘されています。

そんな放置柿を地域資源に変えるために商品開発を目指した結果、ジャムやチップスなどの試作品を完成、試食会を行いました。

柿の活用には、丹波篠山市の「みたけの里づくり協議会」が獣害防止活動として行った「さる×はた合戦」に参加して貰ってきたものを「生かして」使いました。

また試食会の様子は、地元紙など新聞3社に掲載されました。

栗は「割れ栗」など商品化が難しいB級品の活用として、丹波栗100%の『マッシュマロン』が第9期に完成しJA丹波ひかみ等で販売できました。



丹波栗

柿

今期は、より品質向上と低コストによって販路拡大を目指しています。

お茶は、放置茶畑が多い丹波篠山市後川の幻の銘茶「寒茶」の広報活動を第9期から引き続き行っています。

そして、お茶の成分「カテキン」によって『新型コロナウイルスの不活化』が確認されています(令和2年11月25日 奈良県・公立大学法人奈良県立医科大学 プレスリリースより)。最新情報を活用し、お茶が健康に役立つことをアピールしながらお茶生産者の意識向上につながる活動に取り組んでいます。



グループメンバーで試食会



後川の寒茶の刈り取り



# 交流のたんば つなごうグループ

私たちは、移住希望者と地域の方々を“つなごう”が、目的のグループです。  
移住希望者の方々に、丹波、篠山の魅力発信しましょう！ 去年は、下地作りの調査、現況の把握に向かいました。

①丹波市移住相談窓口“移充テラス”の代表に状況を伺いました。移住相談件数は確実に増えているそうです。デメリットも包み隠さず話されて、全体像を伝えた上で人生設計してもらうサポートをされています。



“移充テラス”で意見交換

②最近の移住トレンド、農業をきっかけに移住された方も多いことから、“農(みのり)の学校”取材しました。事務局の方から、学校の仕組みやカリキュラムの説明を受けました。自分で耕し、育て、食べる、「自産自消」を掲げて取り組まれています。週末開講のアグリノベーション大学校は全国最大規模、土作りと生産だけではなく、経営の事も勉強できる等々、しっかりと農業を学ぶ環境が整っていました。



農の学校でお話を聞きました

③2月には、篠山暮らしお試し住宅への取材も予定しています。今年は、発掘して、魅力発信。丹波、篠山の様々な魅力を発掘し、発信する為のチラシを作成して、広い範囲での配布を目標にしています。目に触れて、手にとってもらえて、ゆっくり見てもらえる、パンフレットの作成を目指します。



実習圃場で記念撮影

# 元気なたんば おかの草刈り応援隊グループ

岡野地区内の農業を維持発展させるため、農業に関する諸問題への対策を検討する「岡野の農業を考える会」(岡野ふるさとづくり協議会地域振興部会)の提案から『おかの草刈り応援隊』を発足させました。



丹波地域ビジョン委員会では、岡野ふるさとづくり協議会と連携し、草刈り後に出る刈り草の有効活用について模索をはじめました。

その中で、地域に残る“灰屋”に注目し、神戸大学大学院の研究者を招き、「灰屋の焼土肥料について」と題して講演会を開催しました。



3/7(日)灰屋ウォーク！  
ご参加ください！



灰屋は、丹波篠山市が農業遺産の認定を目指して申請した遺産価値を構成する要素のひとつとして挙げられています。

残った灰屋を守り、有効活用できないかー。

3月7日(日)には「灰屋ウォーク」を開催して、どう発展させていくか検討を進めたいと計画しています。



私たちWaKaiグループは、丹波地域の30年後のあったかい未来を目指し、活動しています。

今年度は、令和3年3月20日(土)に、明橋大二氏を講師にお招きし、オンライン子育て講演会を開催する予定です。

ただのアドバイスで終わるのではなく、全てを受け入れ、肯定して下さる、そんな心温まる、素敵なお話になると思います。

ママは勿論、パパやおじいちゃん、おばあちゃん、子育てに関わる多くの方に参加いただきたいと思います。



丹波市市民プラザのイベントで広報活動しました！



eスポーツ体験会様子

## 明橋大二先生 講演会

～子育てハッピーアドバイス～



明橋大二 著「子育てハッピーアドバイス」シリーズより  
イラスト・太田知子

a/eゲーム会を別途活動とし、ゲームを通じて繋がりをテーマに社会的孤立防止を目的に進めています。病気、離職、結婚、子育て、関わりが変わった時に孤立化しないよう、ゲームを通じた居場所作りに取り組んでいます。

また、丹波からeスポーツを広めて事業化に向けて啓発活動をしていく予定です。



私たち花あかりグループは、子どもに添加物の摂取を少なく小さい時から病気予防してほしい思いで、昭和の安価な手作りおやつを紹介を目指して取り組んでいます。

最近、アレルギー・生活習慣病を幼少期から指摘される子が増えてきた傾向を見て、昔のおやつは無添加で作っているからそれを広めよう、そしてそれを食べて将来のために添加物の摂取を減らしてくれたら、という願いもあります。

家にありそうな水・砂糖・小麦粉を使って子どもでも作れ、一人親や共働きなど親の帰りが遅くなった時におやつや加工品を食べて待つのではなく、添加物の少ない食べ物で補ってほしいと考えています。

昭和に食べていたおやつを紹介するために、レシピと分量調査と子どもも交えた試食会を開催し、今風にアレンジもするなど、世代間の交流もできればと思います。

○調査おやつ：べた焼き・すいとん・ういろ

○体にやさしい調理：だら餅ぜんざい・ジャム作り



べたやき

小麦粉と水だけで作れます。実験では、野菜を入れたり、ジャムをつけたアレンジメニューも試作しました。



すいとん

小麦粉と水で作った団子をお味噌汁に入れて作ります。もちりとした食感でおなかいっぱいになります。



ういろ

小麦粉と砂糖と水を電子レンジに入れればできあがるお手軽おやつ。



だら餅ぜんざい

だら餅はお米が入ったお餅です。完全餅米より切れやすいため、喉につまりにくい性質があります。

### 今後の取組

- ☆ 試食会をしている中で、昔の調理法や調味料などの作り方（添加物を意識した作り方）を若いお母さんに伝えていく取組。
- ☆ 活動した内容を冊子化
- ☆ 添加物キットを使った体験会の開催（マルシェ等に参加）





## 丹波県民局からの 情報コーナー

### 丹波地域ビジョン委員会とは？

丹波地域ビジョンに描いた将来像を実現するため、地域住民のみなさんとの参画と協働により地域づくりに取り組むための組織で、平成13年度から設置している委員会です。  
5つの将来像「自立」「交流」「元気」「絆」「安全・安心」の実現に向けて、取組を進めています。

### 新しい地域ビジョンを検討しています

丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」は、平成13年2月にとりまとめられ、平成23年10月にはその改訂ビジョンを策定しました。

当初ビジョンの策定から20年、現行ビジョンの策定から10年が経過し社会情勢も大きく変化する今、新しいビジョンの策定に取り組んでいます。

県民との意見交換「ビジョンを語る会」や、地域のキーパーソンへのヒアリング、地域の若者から未来のアイデアを募るワークショップ「丹波地域未来デザイン会議」など、様々な機会から得られたヒントをもとに、学識経験者等による「丹波新地域ビジョン検討委員会」とともに、よりよい丹波の未来の姿を描いていきます。



丹波地域「ビジョンを語る会」



丹波新地域ビジョン検討委員会

丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」の実施状況をフォローアップするため、地域ビジョンに係る指標を策定しています。  
詳しくはQRコードからご覧ください。



## 編集後記



もし漢字一文字で今年度を表すならば、どの漢字を選ばれますか？  
わたしは『元(はじめ)』で表現できていると思っています。それは新型コロナウイルスによって全ての状況が変化し、新たなスタートが始まった!!からです。

新型コロナ感染拡大によって、生活様式や日本経済が一変したのは確実です。おそらく来年度も感染予防対策を続けて、もっと個人の日々の行動が問われるでしょう。

ビジョン委員会の意義は、地域社会の課題解決に向けて思考し実践することにあります。しかし今までの活動は、解決するための執着が曖昧

昧でした。ただ今、コロナ禍だからこそ課題達成のための行動が必須と感じています。しかも達成したとしても、その中には感染防止対策を折り込むことが大切!!と強く思っています。

10年後、20年後も含め丹波地域の安全で安心感がある社会を目指して活動に精進して参ります。今後ともご意見や励ましをいただければ幸いです。

皆さまの健康とステキな毎日を過ごされることを心より願ってやみません。

第10期丹波地域ビジョン委員会 広報委員長 加藤 晴之

### たんばビジョン通信第32号(令和2年2月発行)に寄せられたご意見の一部をご紹介します！

- ・ 丹波の田園を生かさないといけない。休耕田の活用がこれからの問題。(丹波市・男性)
- ・ 地元の食材を見直すことで新たな「食」にスポットが当たる。それがきっかけとなり新しい特産品も生まれ地域の活性化になる。(加東市・男性)
- ・ ビジョン通信は写真もすばらしく文章も読みやすいので、毎回の発行を楽しみにしている。(丹波市・女性)

### プレゼントのお知らせ

本誌のご感想をお知らせください！  
興味があったグループ名・感想をご記入のうえ、ハガキ、FAX、またはメールにて事務局へお送りください。  
お送りいただいた方の中から抽選で、10名様にささやかなプレゼントを致します。  
当選者の発表は4月末に発送をもって代えさせていただきます。

応募締切: 令和3年3月31日(水)(必着)

※ご記入いただいた個人情報は、プレゼント発送にのみ使用いたします。  
なお、頂いた感想は、他の媒体にて掲載させていただく場合があります。



### 丹波地域ビジョン委員会事務局

兵庫県丹波県民局県民交流室総務防災課

〒669-3309 丹波市柏原町柏原688

TEL: 0795-72-0500(内線217) FAX: 0795-72-3077

E-mail: tambakem@pref.hyogo.lg.jp

丹波地域ビジョンや委員会の活動については、丹波県民局ホームページ、Facebookをご覧ください。

丹波地域ビジョン委員会 検索